

散剤：栝楼牡蛎散，侯氏黑散，白朮散

麻黄

まおう

《本経中》

一名竜沙。味苦温。生川谷。治中風傷寒頭痛。温瘧。發表出汗。去邪熱氣。止咳逆上氣。除寒熱。破癥堅積聚。

《別録中》

微温，無毒。主治五藏邪氣緩急，風脇痛，字乳余疾，止好唾，通腠理，疏傷寒頭痛，解肌，洩邪惡氣，消赤黑斑毒。不可多服，令人虛。一名卑相，一名卑塩。生晋地及河東。立秋採莖，陰乾令青。厚朴為之使，惡辛夷，石韋。

効能：① 皮毛系の宣散

① 皮の衛氣（前通，後通）を推進する。

皮毛系の宣散を高めることにより肺→胸→上膈→前通・後通路の皮という過程で，皮の衛氣を皮に平行に走らせる。この作用により，たとえば皮に外束した寒邪を外散させる。

『本経』“治中風傷寒頭痛”“發表出汗”“去邪熱氣”“除寒熱”
『別録』“通腠理”“疏傷寒頭痛”“解肌”

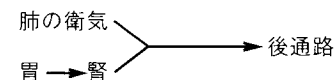
② 膈邪を外散させる。

肺の宣散を高めることで，肺→胸→上膈→皮のどの部位における邪も外散させる。たとえば上膈に存在する瘧邪を外散させる。（外台・牡蠣湯）

『本経』“治温瘧”，『別録』“主治風脇痛”

③ 胃氣を腎氣に繋げる。

後通の衛氣を推進することにより，胃氣が十分にあれば，



という経路で2次的に胃氣を腎に送り込むことが可能となる。同様に肺の宣散を高めることにより，胃→心下→膈→胸→肺へと胃氣は受動的に向うことになる。

② 肺氣を心・心包に繋げ，心・心包系の宣散を高める。

① 脈中の血・脈外の氣を推進する。

肺氣を心・心包に送り出す結果，心→脈中の血，心包→脈外の氣という経路で，脈中の血，脈外の氣を推進する。

2次的に活血，行血の作用を有することになる。

『本経』“破癥堅積聚”，『別録』“消赤黑斑毒”

麻黄の第1の作用は，皮毛系の宣散による皮の衛氣の推進にある。次いで第2の作用は，脈中の血，脈外の氣の推進にある。この第2の作用は桂枝よりは強い。しかし，発汗させるためには麻黄のみではなく，さらに脈外の氣を推進し，氣を腠理を通じて外向させる桂枝を併用する必要がある。

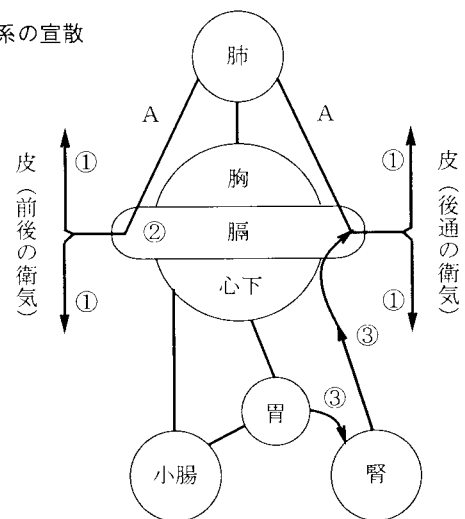
『本経』“發表出汗”，『別録』“解肌”

作用する場所：肺，心，心包，皮，血脈

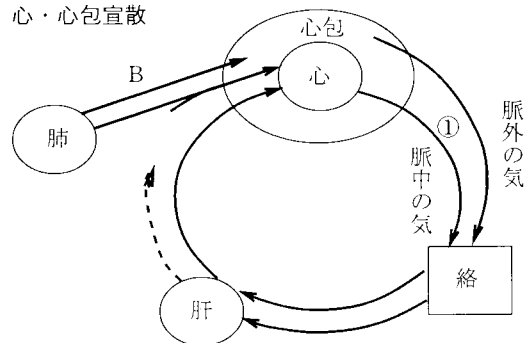
処方：烏頭湯，越婢加朮湯（千金），越婢加半夏湯，越婢湯，葛根湯，葛根加半夏湯，還魂湯，桂枝加葛根湯，桂枝去芍薬加麻黄細辛附子湯，桂枝芍薬知母湯，桂枝二越婢一湯，桂枝二麻黄一湯，桂麻各半湯，厚朴麻黄湯，三黄湯（千金），小青竜湯，小青竜湯加石膏湯，統命湯（古今録驗），大青龍湯，文蛤湯，牡蠣湯，麻黄湯，麻黄加朮湯，麻杏甘石湯，麻杏薏甘湯，麻黄升麻湯，麻黄醇酒湯（千金），麻黄附子甘草湯，麻黄附子細辛湯，麻黄附子湯，甘草麻黄湯，麻黄連軀赤小豆湯，射干麻黄湯，麻黄湯

丸剤：半夏麻黄丸

[A] 皮毛系の宣散



[B] 心・心包宣散



麻子仁

ましにん (麻ま黄ふん)

《本経上》

一名麻勃。味辛平。生川谷。治七傷。利五藏。下血寒氣。多食令人見鬼狂走。久服通神明輕身。麻子。補中益氣。久服肥健不老。

《別録上》

有毒。破積，止痺，散膿。此麻花上勃勃者。七月七日採，良。

麻子：無毒。主治中風汗出，逐水，利小便，破積血，復血脈，乳婦產後余疾，長髮，可為沐藥。久服神仙。九月採。入土中者賊人。生太山。

畏牡蠣，白薇，惡茯苓。

効能：補胃陰，潤下

作用する場所：胃，小腸，大腸

処方：炙甘草湯

丸剤：麻子仁丸

蜜

みつ (石せき蜜みつ)

《本経上》

一名石飴。味甘平。生山谷。治心腹邪氣。諸驚癇瘕。安五藏。諸不足。益氣補中。止痛解毒。除衆病。和百藥。久服強志輕身。不飢不老。